

令和５年度第３回高砂市文化財保存活用地域計画協議会 議事概要

日	時	令和６年１月２９日（月） １３：３０～１６：００
場	所	高砂市役所本庁舎４階４０５会議室 及び オンライン
資 料	会議次第	
	高砂市文化財保存活用地域計画協議会 名簿	
	資料１－１	令和５年度第２回高砂市文化財保存活用地域計画協議会 議事概要
	資料１－２	令和５年度第２回協議会中及び会議後の主な会員指摘事項と対応
	資料２	高砂市文化財保存活用地域計画（素案）
	資料３	目標・方向性・課題・措置案
	資料４	今後のスケジュール
	その他	住民説明会ちらし

- ➡ 協議会会員発言
○ ➡ 事務局発言

１．開会（事務局）

２．あいさつ（教育長）

- 寒い中、またお忙しい中、３回目の高砂市文化財保存活用地域計画協議会にご出席頂き感謝する。会議を始める前に、１月１日に起こった能登半島地震から１か月が経とうとしている。亡くなられた２３６名のご冥福をお祈りし、黙とうを行いたいと思う。

— 出席者一同 黙とう —

災害の多い日本では、防災は避けて通れない。本日の協議では、文化財の防災・防犯についての内容もある。様々な災害を思い浮かべて頂き、忌憚のないご意見をお願いしたい。（教育長）

２．あいさつ（会長）

- ご多忙のところ、本協議会にご出席頂き誠に感謝する。本日は福岡県よりリモート参加している。令和６年もほぼ１か月が過ぎた。本年もどうかよろしくお願いしたい。先ほど教育長もいわれたように、令和６年能登半島地震でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災した皆様にお見舞いを申し上げたい。今年度の地域計画協議会も第３回を迎える。来年度末にまとまったら良いというスケジュール感をお持ちの方がいらっしゃるかもしれないが、認定を受けるには早めに作業を進めなければならない。災害を見据えて安全・安心を第一に考えながら、文化財の保存・活用を進めていかなければならない。２９年前の兵庫県南部地震の際には、高砂市においても伝統的な建物等が被害を受けたことも記憶している。そうした意識を持ちながら、本日の協議会が意義深い機会となるよう、どうかご協力をお願いしたい。（会長）

＜会長がオンライン参加、副会長が欠席のため、議事進行を会員に依頼する旨会長から提案があり、会員一同了承。＞

3. 報告

(1) 令和5年度第2回高砂市文化財保存活用地域計画協議会の協議内容

○資料1—1・資料1—2について、事務局より概要説明。

●49ページの図3-1について、「みなとのまち」と「白砂青松と文芸」の数字が逆ではないか。(会員)

⇒ご指摘の通りなので、修正する。(事務局)

●目標について、「高砂らしさ」ではなく「高砂市らしさ」としたのはなぜか。(会員)

⇒高砂町地区と高砂市全体を区別している。目標としては市全体のことを表したいので、「高砂市らしさ」とした。(事務局)

➡総合計画では「高砂」としているが、市としての今後の方針はどうか。(会員)

●目標が修正されているが、端折りすぎて言葉足らずな印象を受ける。「つなげ」は「文化の創造につなげる」という意味ではないのか。(会員)

⇒何をつなげるのかを明確にしたい。(事務局)

➡前回の議論では、「新しい地域文化」が分かりにくいという意見があった。「受け継ぐ」は過去から現在へ、「つなぐ」は現在から未来へというイメージだと思う。(会員)

⇒総合計画の「未来」というキーワードを使いながら、「未来へつなげ」と修正したい。(事務局)

●「近代化とあゆんだ」の「あゆんだ」をひらがなとしているのは、文化財審議委員会でのご意見を受けてのことか。「まちづくり」がひらがななので漢字にしても良いかもしれない。(会長)

⇒表記についてのご意見はなかった。事務局で、ひらがなのほうが柔らかく親しみやすいのではないかと判断した。(事務局)

➡バランスを見るのであれば、漢字にすると締まるのではないか。(会員)

⇒漢字に改めたいと思う。(事務局)

4. 協議

(1) 文化財の保存・活用の措置について

○資料2・3を用いて、方向性1（調査・普及）・方向性2（保存・管理・整備）の措置について事務局より概要説明。

●第6章の冒頭で、高等専門学校を省略して「高専」となっているが、既出か。整理して頂きたい。(会員)

●措置1「美術工芸品等悉皆調査」は個人の所有物が多いことが想定される。県内でも似たような調査を計画することがあるが、挫折することが多い。どのような観点からこの調査が必要なのかを整理したほうが良いのではないか。文化財として知っておくというだけでは、個人財産に対して協力を求めるのは無理があるのではないかと思う。例えば、防火・防災の面で対応できるように、必要最低限の情報だけでも把握したい等の目的があれば、協力してもらえるのではないかと思う。(会員)

⇒個人の所有物はハードルが高いので、まずは調査が行き届いていない寺社からご協力をお願いしたいと考えている。また、住民が講を作り管理している無住のお堂もあるので、それらも防災・防犯の

観点から調査を行いたいと考えている。(事務局)

- 措置9「地域と連携した地域のお宝さがしイベントや調査の実施」について、やる意味は非常によくわかる。ただし、「再発見するイベントは調査なのか？」という意見も出てくるかもしれない。調査だけでなく、それを市民と共有するという、またイベントという分かりやすい形で実施することは大切だと思う。趣旨が分かるように、書き方を少し工夫されると良いのではないかと。(会員)

⇒趣旨を明確に示すように修正する。(事務局)

- ➡未調査の文化財を調べる意義としてはどのようなことが想定されるのか。(会員)

➡価値があるものを皆で分かち合うという部分を含める場合と、全く調査されていないものを探るとする場合等、調査をどうとらえるかで色々な考え方がある。やること自体はすごく重要なので、やる意義がより明確になれば伝わるのではないかと。(会員)

- 措置20「マツ等の植樹・自然遺産の保全」について、保存・管理・整備ではなく、「社会に活かす」に位置付けたほうが良いのではないかと。(会員)

⇒ご指摘のとおりである。「社会に活かす」の措置として位置付けることを検討する。(事務局)

- 措置6「重要遺跡の調査」の解説について、日笠山貝塚や高砂湊と比べると、近代の遺跡についての目的が少し分かりにくいと感じる。(会員)

⇒近代の戦争遺跡については漠然とした形で記載していた。具体的に何ができるのかを検討したうえで、文章を再検討する。(事務局)

- 89 ページの前段の文章について、「博物館や美術館等」と言い切っており、市で博物館や美術館を確実に建設するように読める。ハコモノを作るよりは、まち全体を博物館に見立てて滞在しながら色々なものを見てもらうという取組もある。そういう少し含みを持たせた表現を検討してはどうか。(会員)

⇒89 ページに記載している博物館や美術館は、兵庫県立博物館等既存の機関を専門家として捉えていきたいという意味である、92 ページの措置17「文化財収蔵機能と博物館機能の整備」については、まだ具体性はないが、課題として次の計画につなげたいという意味で記載している。(事務局)

- 89 ページの前段では、「ひょうごヘリテージ機構 H20」の名前が挙がっているが、大学・高専と並んでいるのは少し違和感がある。名勝等他の分野もあるので、団体名ではなくヘリテージマネージャーという表現のほうが良いのではないかと。(会員)

⇒高砂市の計画なので、兵庫県内のヘリテージマネージャーに色々と協力してもらうことになると思う。表現を訂正する。(事務局)

- 89 ページについて、「市民」・「団体」・「専門家」と括弧書きでそれぞれ示されているが、例えば、90 ページの措置9「地域と連携した地域のお宝さがしイベントや調査の実施」では、「市民や専門家、大学」と書かれており、専門家と大学が並列になっている。そのあたりの定義や表記を整理するべきである。(会員)

⇒ご指摘の通り、主体を整理する。(事務局)

- 「知る・知らせる」について、全体を通して「知らせる」につながる表記が弱く、ほとんど調査で終わってしまっている。「積極的に発信する」等の言葉を足す等、全体に通じて可能な範囲で見直してはどうか。(会員)

⇒調査をしてどのように還元していくのかについて、表現を再検討する。(事務局)

- 91 ページについて、有形文化財に関しては耐震的な措置を足しても良いのではないかと。美観的な意味での改修や修理の措置はあるが、構造的な意味での修理等の措置は入っていない。今回の震災でも、耐震化していたところは少しは被害を免れたというような話も聞いている。(会員)

⇒107 ページの防災・防犯の措置でも耐震について記載できていない。耐震に関する措置を追加する方向で検討する。(事務局)

- 措置 17「文化財収蔵機能と博物館機能の整備」について、「検討」程度にとどめておいてはどうか。(会員)

⇒ご意見を参考に表現を改める。(事務局)

- 措置 18「有形・無形文化財の記録」について、「また」が2回続いているので表現を検討してほしい。(会員)

- 措置 20「マツ等の植樹・自然遺産の保全」について、ここでは「高砂らしさ」とされている。無意識に「高砂らしさ」になるなら、目標でも「高砂市らしさ」にこだわらなくても良いのではないかと。(会員)

⇒全体を見直して、「高砂」、「高砂市」の用語の使い方について検討したい。(事務局)

➡現行の総合計画が「高砂」としているので、「高砂」としたほうが違和感はないのではないかと。次期の総合計画で表現が変わる予定はあるのか。(会員)

➡特にないと思う。語感も考慮して「高砂」としているのだと思う。(会員)

⇒「高砂市」とすると70年間だけの歴史になってしまうような気がするのと、表現を再度検討する。(事務局)

- 90 ページの措置 6「重要遺跡の調査」について「発掘調査を実施する」となっているが、発掘調査だけで良いのか。他の調査もあるのであれば「調査」だけで良いのではないかと。(会員)

⇒戦争遺跡については発掘調査を行わないので、「発掘調査等」と修正する。(事務局)

- 重点措置は措置 6「重要遺跡の調査」、措置 14「旧入江家住宅の整備・活用」となっているが、異論はないかと。(会長)

⇒特に異論がないようなので、原案のとおりとしたい。(事務局)

○資料 2・3 を用いて、方向性 3（活かす）・方向性 4（創る・支える）の措置について事務局より概要説明。

- 94 ページの措置 21「文化財建造物の公開活用」について、「市民や企業が所有する」となっているが、ここで扱っている近代建築の所有者は市民に限っているのか市外も含むのかわからないので、「個人」としたほうが良いのではないかと。(会員)

- 措置 23「文化財施設を活用した福祉事業」と措置 31「日本遺産事業」の共通であるが、タイトルが「事業」で止まっているが、他の措置の表現と合わせて「～の推進」等としたほうが良いのではないかと。(会員)

- 措置 24「歴史文化を活かした観光イベントの実施」について、「ロゲイニングイベント」等の用語は注釈をつける等したほうが良いのではないかと。また、「DXを使った情報の発信」についてはタイトルと合わないのと、別の措置として分けても良いかもしれない。(会員)

- 措置 34「ラトローブ市との国際交流事業」について、「オーストラリアの」と説明を付け加えたほう

が良い。また、「歴史文化の活用を進める」というよりは、「歴史文化を活用した国際交流の企画や事業の推進」等としたほうが良いのではないかと。(会員)

- 方針 4-3「学校等におけるふるさと教育の推進」や措置 27「観光ボランティアの育成」と関連するが、「子どもボランティア」・「子どもガイド」等のようなものも、キーワードとして入れても良いのではないかと。措置 37「高砂の特色を活かしたふるさと教育の推進」や措置 38「小・中・高等学校の児童・生徒を対象とした体験活動等の拡充」では、どうしても子どもが受け身で、子ども自らが主体となり担い手となるニュアンスが少し薄い。(会員)

- 方針 4-6「展示機能の充実」とあるが、措置 43は「浮石資料館の運営見直し」であり、充実と運営見直しは少し違うのではないかと。利用者にとって使いやすい、アクセスしやすいということだと思うので、方針を「親しみやすい展示機能への検討」等としてはどうか。(会員)

- 措置 44「文化財相談の拡充」について、「相談の周知」となっているが、「相談窓口の周知」ではないか。また、ここにはヘリテージマネージャーを言葉として入れてはどうか。ヘリテージマネージャーは文化財相談の受け皿として人を育成しているので、ヘリテージマネージャーが相談窓口だということを市民に周知すると良いと思う。(会員)

➡文化財相談の受け皿にヘリテージマネージャーがなるということについて、市としてどのように考えているのか確認したいと思っていた。もちろん協力していきたいと思っている。実際、他県でも建築士会が窓口となって文化財相談を受けることをプロモーションしているところもある。(会員)

⇒措置 44「文化財相談の拡充」では、先祖探しや歴史調べ、学生対応等を想定していた。文化財部局の事務所が、本庁ではなく出先にあるので、それを明確にしようという意図であった。より発展的にヘリテージマネージャー等との連携についても検討していきたい。(事務局)

- 方針 4-10「多様な手法による財源確保」では、「多様な手法」と言いながら、ふるさと納税しか書かれていない。寄付やクラウドファンディング等、いくつかの言葉を入れたほうが良いのではないかと。(会員)

- 措置 21「文化財建造物の公開活用」については、具体的には公開を指しているのか。活用というと他の用途に使うことをイメージする。内容を明確にするには公開だけで良いのではないかと。また、方針 3-1「文化財建造物の公開活用」について、「公開・活用」にしてはどうか。(会員)

- 観光交流ビューローとしてどのようなことをしているのか少し説明させて頂きたい。措置 24「歴史文化を活かした観光イベントの実施」にあるように、現在も市内のデジタルスタンプラリーを1月末まで実施している。大変好評であり、たくさんの方に参加してもらっている。景品がつく等、違う意味合いでの参加かもしれないが、高砂市内の史跡等を知って頂くきっかけになっていると思う。また、コロナが落ち着き、観光交流ビューローのホームページの閲覧者数も増加し、少しずつ高砂市へ訪れている人も増えてきていると報告を受けている。今後もシティプロモーション室と協議をしながら、高砂市を発信し集客していく方法を考えていきたい。学校等における教育の関係については、私個人的に、学校や行政、企業と協力しながら、私の母校でもある米田小学校や米田西小学校で竜山石に関する独自の授業を行っている。今回、子どもたちが調べたことを発表する場を持ちたいという学校長からの相談があり、ビューローが管理している生石の浮石資料館を利用してはどうかという話になった。今年度内に子どもたちが独自に調べたことを発表する場を設けることを企画している。今後も、子どもたちが自分たちで調べたことや学んだことを発信・発表する場を作ってい

たいと考えている。最後に、ふるさと納税について、今年度に関しては少し伸び悩んでいる状況がある。ただ単に商品を買うだけではなく、「こう使ってほしい」という項目を作ってもらえないかという相談もある。文化財を維持していくための財源についても、ふるさと納税等を活用する方法を考えていきたい。(会員)

- 措置 36「文化財保存活用地域計画協議会の設置と運営」が、方針 4-2「関係各課との連携」で挙げられているが、庁内協議会のような形になるのか。(会員)

⇒現在の協議会では、行政として副市長が参画している。計画を具体的に推進する上では、各課と連携して施策を展開していくことになるので、関係各課が協議会に参画することを想定している。(事務局)

- ➡歴史文化や文化財を活用する可能性が共有されることが大事だと思う。この計画を作る中でうまく基盤ができていくと心強いと思う。(会員)

- 措置 23「文化財施設を活用した福祉事業」について、県立考古博物館ではこれまでは小さい子どもたちが多かったが、最近はデイサービスの利用客が夕方からは多くなっている。古いものを見て心が安らぐという意見も多いようなので、文化財と福祉も可能性としてつながると感じる。高砂市では、そうした施設を集約させるのではなく、分散させるという考え方が良いのではないと思う。(会員)

- 98 ページでのふるさと学習の記載について、ここでは既に行っている事業が主であるが、探求に近いような部分を追記してはどうか。(会員)

- 重点措置は措置 24「歴史文化を活かした観光イベントの実施」、措置 37「高砂の特色を活かしたふるさと教育の推進」、措置 38「小・中・高等学校の児童・生徒を対象とした体験活動等の拡充」の3つで良いか。(会長)

- ➡措置 44「文化財相談の拡充」は重要ではないか。(会員)

⇒強調すべき部分であると思う。(事務局)

- ➡私の周りにも、色々と文化財の調査をして、小学校等で分かりやすく話す等の活動をしている人がいる。そういう人たちは、ちょっとした読み方がわからない等困っていることがある。今後、ボランティアは大きな力になると思うので、ボランティア活動で困っていることを相談出来たら良いと思う。行政の説明ではある程度客観的な表現になり、あまり面白おかしくは表現されない。ボランティアに活動してもらえるように、支援のような意味合いを含んではどうか。(会員)

- ➡方針 4-7「相談体制の強化」と方針 4-8「地域・団体の活動体制の整備」を整理するような形で考えて頂きたい。(会員)

⇒活動を支援していくという意味では、重点的な措置だと思うので整理を行う。(事務局)

- これは要望であるが、この計画が出来上がると、広く読んでもらいたい内容だと思う。高砂の歴史や文化財が非常にまとまっている。あまりなじみのない言葉については注釈を入れる等すると、色々な人に読んで頂きやすいのではないと思う。(会員)

⇒計画書としてのフォーマットもあるので、計画本編ではできないこともあるが、市民の方に向けて 16 ページの概要版を作成する予定である。その際には、分かりやすいものとしたい。(事務局)

- 措置 21「文化財建造物の公開活用」と措置 14「旧入江家住宅の整備・活用」で、「活用」が被る。措置 14 は整備に重点を置いたほうが分かりやすいのではないか。(会員)

～休憩（15:00～15:10）～

（２）文化財の防災・防犯について

○資料２について、事務局より概要説明。

●取りまとめるにあたっては防災部局と意見交換をされているのか。（会員）

⇒意見交換を行っている。（事務局）

➡能登の地震でも、普段の連携がうまくいっているところとうまくいっていないところではっきり分かれています。文化財部局が考える理想と、実際の市全体での防災対応の考え方をすり合わせる事が重要である。そのあたりは当然踏まえて頂きたい。108 ページでは、災害発生時の各主体の役割が示されているが、大規模災害のときにこの通り動けるかという、自信がないということであった。災害といっても色々な規模があるので、台風被害等通常の市で対応できる災害についてはこのような形で動くということを明記する必要があるのではないかと。大規模災害の際には、高砂市業務継続計画等に従って、まずは人命救助や安全確保に取り組むことになると思うので、その場合には「業務継続計画に基づき適切な対応を行い、関連部局に支援を求める」等という一文を入れておけば良いのではないかと。文化財の場合、なぜ被災状況を急いで把握しないといけないかという、2つの考え方がある。ひとつは持ち去られて破壊されることを防ぐということである。仏像や絵画等は、地震の時にすぐ持ち出されると、被害が大きくなるが、能登もそれが心配されている。特に、公共の財産として市・県・国が指定しているものがなくなってしまうことが重要である。もうひとつは、どれだけ復旧に費用がかかるのかの算段のために状況確認の必要があるということである。（会員）

●100 ページでは、自然災害・人為災害と分けられているが、山火事は自然災害に入るのではないかと。また、火災の状況については文化財に限らないということが分かりにくい。表 8-2 については、自然災害とはっきり記載したほうが良いのではないかと。表記を工夫してほしい。（会員）

●阪神・淡路大震災の際にも、リストアップされていないものについて、取り壊しの補助金が出るとなると、壊すほうに動いてしまうということがあった。そういった状況を防ぐには、日頃からの意識啓発も重要だと思うが、専門家との連携や協力体制の構築も必要ではないかと。能登の地震についても、建築学会ではメーリングリスト等で随時情報が流れてきており、文化財の調査等に専門家も入っている。（会員）

⇒資料ネットワーク等も含め、体制の構築について検討する。（事務局）

●措置防-2「『高砂市史災害史編』の刊行」とあるが、これはどの程度のものを想定されているのか。すでに発刊している高砂市史と同じようなレベルでつくるといように読めるが、どこまでのものが作れるのか。もう少しタイトルを検討して頂きたい。（会員）

⇒資料集や記録集程度でとどめておくことを検討する。（事務局）

●今回の能登の地震を受けて、文化財の所有者として、文化財に住んでいるものとして、耐震が気になる。高砂市にある文化財が一体どの程度の地震に耐えられるのか、あるいはそれに対する対策をどう講じたら良いかということについて専門家に教えて頂きたい。300 年前の建物に住んでいると、命がけである。一度、崩壊してしまったら瓦礫になってしまう。おこった後のことも大切だと思うが、防ぐにはどうしたら良いかも考えて頂きたい。（会員）

- ➡セーフティネット的なものとして、兵庫県ではフェニックス共済等がある。そうしたことにも少し触れるだけでずいぶん違うのではないかと思う。(会長)
- ➡十輪寺でも火災保険に入っているが、上限の補償額が3000万円である。クラシックカーに車両保険がかけられないのと同じような状況であり、起こってしまえば再建は難しい。(会員)
- ➡指定文化財以外のものも含めて、いざというときに少しでも支援できるような仕組みを意識したほうが良いのではないかと感じる。(会長)
- ➡方針防-3「緊急時に備えた予防措置の実施」のあたりで書き込めたら良いのではないか。(会員)

(3) 文化財の保存・活用の推進体制について

○資料2について、事務局より概要説明。

- 113ページと114ページの整合を図るべきではないか。例えば、「観光・商工」と「商工・観光」や、行政に国や県を入れるかどうか等を見直してほしい。また、111ページについて、表9-1では大学等となっているが大学・高専としなくて良いか。(会員)

⇒表現の統一を図る。(事務局)

- 114ページは主な団体となっているが、個人・団体としたほうが良いのではないか。(会員)

- 防火・防災の面で、消防団と文化財の関係はどうか。例えば、文化財防火デー等で消防団が啓発活動をした等の例はあるのか。(会員)

⇒今年は中止になったが、十輪寺で文化財防火訓練をする際には、各地域の消防団に参加してもらった。(事務局)

- ➡消防団自体が組織を維持するのに大変な状況であり、いきなり文化財を目配りするとなると難しいかもしれないが、協力してもらえるのであれば記載を検討しても良いのではないか。(会員)

⇒消防本部と協議の上、記載を検討したい。(事務局)

- 116ページでは、ヘリテージマネージャー関係も書いて頂いているが、無形民俗文化財ヘリテージマネージャーというものもある。(会員)

⇒抜けている主体がないか、確認して追加する。(事務局)

5. 今後のスケジュールについて

○資料4、資料(その他)を用いて、事務局より今後のスケジュール説明。

○住民説明会について案内。

6. その他

- 歴史文化のテーマ5の「近代化とあゆんだまちづくり」のテーマに関しては、村上副会長と相談して最終決定するということにしようか。(会長)

⇒会長・副会長とご相談の上、最終決定する。(事務局)

7. 閉会(事務局)